

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2023年4月30日（日）

主 題：「信仰告白に立つ三つの確信」

— まことの神—

テキスト：第一ヨハネの手紙5章13-21節

はじめに

・お早うございます！

- ・第一ヨハネの手紙の説教も、いよいよ最終回となりました。
老齢となった使徒ヨハネは最後の力を振り絞るかのように、今まで述べたことを要約しつつ、私たちキリスト・イエスの「愛」を受けた聖徒に、イエス・キリストの「愛」の内を歩むことを願い勧めました。そしてその「愛」の信仰において、確信を持って生きることを願いました。

- ・ここにヨハネの願いが書かれています。

5:13 神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。

『例 話』

- ・ところで、これは現実にあったお話しです。しばらく前に中国から残留孤児の男性が KIBC に来られました。そしてイエス・キリストを信じ、洗礼を受けられました。彼は第二次世界大戦中に中国で生まれましたが、日本は敗北したため、彼の両親は帰国しなければなりませんでした。
- ・ところが彼の両親は、小さい彼を日本に連れてくることは無理と判断しました。そこで心優しい中国人に、息子を預けることにしました。
- ・それから中国人家庭で育てられた彼は、やがて自分の過去を知ることになりました。彼は何とかして、自分の兄弟を探し見つけたいと、いろいろ努力しました。そのために日本にまで来ました。しかし残念ながら、彼は肉親に会うことなく中国に帰りました。その後、彼は召されたと聞きました。
- ・残留孤児であった彼は、苦しみました；なぜ、苦しんだのだのでしょうか。
 - ①残留孤児でした
 - ②手がかりや証拠（証明）がありませんでした。
従って彼は、
 - ③日本人である「確信」に至りませんでした。

- ・実際に本人が残留孤児と主張しても、証拠となるものがなければ、日本人という確信には至りません。残留孤児として立証されるには、事実と手がかりとなる証拠（証明）が現れなければ、確信には至りません。
私には、彼のことがいつまで心に残っています。
- ・ヨハネはこの書簡の最後で、イエス・キリストを信じ、その信仰告白に立つ人は、このような例ではなく、しっかりとした「確信」があると述べています。そして、その確信を持ち続けてほしいと語っています。
- ・では、一体どのような確信でしょうか。正しい信仰を持つ人には、どのような確信があるのでしょうか。3点

大切なポイント

1. 真のいのちを持つ確信

- ・ヨハネの福音書には次のように記されています。
- ・20:31 **これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。 ヨハネ**
これはヨハネの福音書が書かれた目的でもあります。そして同じ著者であるヨハネは次のように言いました。
- ・5:13 **神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。1ヨハネ**
すなわち、いのちを持っているという事実について確信を持ち、その上で神の家族の一員として勝利の歩みをしてもらいたいと願いました。
- ・では、何を手がかりに確信を持つことができるのでしょうか。
それは「**神の御子の名を信じていること**」です。ヨハネはこう言いました。
5:12 **御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。**
- ・またヨハネは、4章9節では次のように述べました。
4:9 **神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。**
- ・ですから、神の御子イエスを信じる者は、その「信じている」ことを根拠として「私はいのちを持っている」と確信することができます。
そしてその信仰の実は、兄弟愛をとおしても確信できます。

3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。

*正しい信仰告白に立つ人は、さらに次の確信があります。

2. 祈りについて確信を持つ

1) 祈りの確信

・正しい信仰を持つ人は、「神が祈りを聞いてくださる」、私たちの願いにじっと耳を傾けくださるという確信があります。

5:14 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。

・これは私たちが神の子であることを思えば、当然です。

私たちの神は、愛する我が子の願いや叫びを無視されるお方ではありません。また耳をふさいだりするお方でもありません。 詩篇 50 篇

50:15 苦難の日にわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出しあなたはわたしをあがめる。」

・その際の、唯一の条件は「神の御心に願う祈りをする」ことです。これも考えてみれば当然です。神の子の生き方そのものが、神の命令の内を歩むからです。

5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

・神と神の子たちは一つ思いに結ばれていますので、大胆に神の前に出ることが出来ます。

3:21 愛する者たち。自分の心が責めないなら、私たちは神の御前に確信を持つことができます。

3:22 そして、求めるものを何でも神からいただくことができます。私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。

・すばらしい聖句です。さらに、ヨハネは述べました。

5:15 私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

・もちろん、これは私たちの要求が直ちに、その通りに実現するという意味ではありません。そうではなく、神に祈ったら最善の結果に導いていただけることが分かっているので、後は安心して待つだけであるという意味です。そこには神との確かな信頼関係があります。

ヤコブも次のように述べました。

1:6 **ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。** ヤコブ

神を信じる神の子には、祈りの確信があります。

2) 神に求めなさい

5:16 **だれでも、兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば、神はその人にいのちを与えてくださいます。これは、死に至らない罪を犯している人たちの場合です。しかし、死に至る罪があります。これについては、願うようにとは言いません。**

5:17 **不義はすべて罪ですが、死に至らない罪もあります。**

- ・クリスチャンは罪そのもののような生き方はしませんが、失敗はします。私たちは兄弟が罪を犯しているのを見たら、どうするでしょうか。
- ・見て見ぬふりをするか、・内心、軽蔑するか、・他人に話すか。様々な反応をすることでしょう。
- ・しかしヨハネは、クリスチャンは「**神に求めなさい**」と言いました。これは「神にお願いしなさい」という言い方です。兄弟として、また当然神が聞いてくださることを確信しているならば、当然神に願います。そうすれば、神は祈りを聞き「罪を犯している人々に、いのちをお与えに」なります。
- ・これは兄弟を滅びに行かせるのではなく、永遠のいのちに至らせるということです。これは兄弟愛です。 ヤコブの手紙5章

5:19 **私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、** ヤコブ

5:20 **罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。** ヤコブ

3) 「二つの罪」

- ・16節は次のように述べています。

5:16 **だれでも、兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば、神はその人にいのちを与えてくださいます。これは、死に至らない罪を犯している人たちの場合です。しかし、死に至る罪があります。これについては、願うようにとは言いません。**

- ・ここに「死に至る罪」と「死に至らない罪」が出てきます。どういう意味でしょうか？

① 「死に至る罪」

不正、不義など、義でないものは「みな」大小の差はなく、また行いによ

ることや、心の中によることを問わず罪です。そして、罪は放っておけば、死に至ります。

- ・「死に至る罪」とは、罪を犯しながらキリストを拒否することです。私には罪はないと言い、罪を犯してはいないと自分を主張することです。

1 ヨハネ 1 章

1:10 もし罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とすることになり、私たちのうちに神のことばはありません。

- ・もう一つ、「死に至らない罪」があるとヨハネは述べています。どういう意味でしょうか。

② 「死に至らない罪」

- ・それは罪と死との間に、キリスト・イエスが入ってくださる罪のことです。

ヨハネ福音書 1 1 章

11:4 これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることになります。ヨハネ

- ・ある時イエスは、ラザロの病いについて「この病気は死で終わる」ものではないと言われました。病気は放っておけば、死を迎えます。回復するためには、自己免疫力を高めたり、医師の処方が必要です。ラザロの「死で終わる病気」とは、イエスが入ってくださったことにより、終極的に死で終わるものではないという意味です。
- ・すなわち「死に至らない罪」とは、キリストに入ってください罪のことです。では、キリストに入ってくださいとは、どういうことでしょうか。

1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

神の前で罪を言い表し、罪を告白するならば、神はきよめてくださいます。キリスト・イエスの聖血によって、罪を洗い清めてくださいます。ですから死に至りません

*正しい信仰告白に立つ人は、さらに次の確信があります。

3. 自分は神のものであるという確信

1) 神の子

- ・1 ヨハネ 5 章 18、19、20 を注意して読むならば、「知っています。」という語句が出ています。その意味は「自分が本当に神の子であることを知

っている。」という意味です。私たちは「神から生まれた方」（イエス・キリスト）がお守りくださっていることを知っています。そこに罪に対し勝利する原動力があります。

3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

- ・ある方は、「悪魔はクリスチャンを誘惑はできても、捕まえることはできない。」と言いました。マルチン・ルターは次のように言いました。

「悪魔と論争するな。彼は5千年の経験を積んでいるのだ。彼はアブラハムやダビデに、あらゆる術策を十分試してきて、正確に弱点を知っている。」

- ・皆さん。私たちは悪魔に素手で向かうならば、絶対に勝ち目はありません。イエスに頼ることです。祈りが必要です。神のみことばが必要です。イエスはペテロのために祈られました。 ルカ福音書 22章

22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。」

イエスは私たちにも、折にかなった助けを与えてくださいます。

- ・ヘブル人への手紙4章

4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

- ・ヨハネは言いました。

5:19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。

- ・ヨハネは、全世界は「悪い者の支配下にある」と述べていますが、なんと絶望的な「全世界」ではありませんか。全世界は元来神のものであり、悪い者（悪魔）のものではありませんでした。しかし現状では、後者（悪）の支配下にあります。そのような絶望的なこの世にあっても、私たちは「神の子」として生き、世に勝つ者として生きることができます。

2) イエスのうちにいる聖徒

5:20 また、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことも、知っています。私たちは真実な方のうちに、その御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

- ・私たちが「神からの者」とされたのは、神の神子が来てくださったからです。キリストこそ神であることを、ヨハネは力強く述べました。

「真実な方」と「まことの神」とは、同じ語で「本物」という意味です。本物の神の内にいることは、神の御子のうちにいることです。すなわち父と御子は一つです。

- このキリストこそ、本物の神、永遠のいのちです。御父と御子の一体性、また御子の神性は、この書簡で何度も繰り返して強調されてきた真理です。

3) 偶像への警告

そしてヨハネは最後に次のように言いました。

5:21 子どもたち、偶像から自分を守りなさい。

- 本物の神を知り、その神の子としていただいた人は、偶像から身を守るべきです。偶像とはまことの神でないものを、神として置くことです。そして、イエス・キリストを否定するすべてのものであります。
- 日本にも数多くの偶像があり、それが人の心をつかみ離そうとしません。偶像は今も昔も変わらない、悪の霊から来ています。しかし神の子となった聖徒は、勝利する力が与えられています。
- なぜならば、「御子イエス・キリストのうちにいる」(5:20)からです。旧約聖書時代、偶像礼拝を強いられたダニエルはその敵対勢力の中で、真の神を礼拝し続けたことを思い出してください。ダニエル書

3:18 しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。」

ま と め

主 題：「信仰告白に立つ三つの確信」

— まことの神—

- 私たちはここまで、第一ヨハネの手紙を学んできました。著者ヨハネは、この書簡の最後で、神を信じる信仰を告白する人には、三つの「確信」があると述べました。

1. 永遠のいのちを持っている確信
2. 祈りについての確信
3. 神のうちにいるという確信

* God bless you !